

うみのごみ みんなでひろおう がんばって

神奈川県藤沢市 小学5年
相羽 凛香

《作品について》

今、海の中や砂浜にあるゴミが問題となっています。それを救えるのは私達だけです。なので、みんなで海のゴミを拾おうという思いをこめました。

守る海 仕事で学ぶ ゴミのこと

神奈川県横浜市 23 歳
青木 武斗

《作品について》

職場がブルーフラッグを獲得したこともあり海を守るには何をしなければいけないのかについて学ぶ機会があったから。

小さな循環 小さな幸せ コンポスト

神奈川県逗子市 59 歳
青野 順子

《作品について》

生ごみを処理機で乾燥させ、土に埋めて堆肥化させることが習慣になりました。すくすく育っている野菜や美しい花を愛でる度に、家庭でも資源が循環されているという小さな幸せを感じます。

守ろうと 小さな声が 青残す

神奈川県逗子市 50 歳
青山 堅

《作品について》

1人1人の小さな声や行動が、大きな変化をおこし、未来の子供達に青い綺麗な海を残そうという想いを込めました。

さんぽ道 世代こえても 美しや

神奈川県藤沢市 43 歳
秋岡 亜美

《作品について》

四世代にわたり湘南に住んでいる家族への思いを込めた作品です。片瀬西浜海岸は我が家の散歩コースであり、四季折々の富士山や日の出、日の入りの時間に散歩をするのが家族の時間です。この贅沢な時間を息子が大きくなって家族を持つようになってからも変わらぬものであって欲しい。コロナ時期より始めた息子とのビーチクリーンでは海にごみを捨ててはいけない意識が高まり、息子の成長を少し感じられるようになりました。

LOVE 湘南

ゴミ多く 海にすてるの やめようね

神奈川県藤沢市 小学5年
秋田 啓介

《作品について》

海に多くのゴミが捨てられてた。いるものと使い捨てにしてものを大切にしない生活を見直したいなという気持ちから作りました。

たべのこし カラスはしってる もったいない

神奈川県横浜市 小学2年
秋山 一晴

《作品について》

燃やすゴミの日は、ゴミ置き場にカラスが集まってきます。ネットの間から引っ張り出してしまうので、生ゴミやビニール袋が散らばってしまいます。その中には僕が残したお弁当の中身もありました。急いで掃除したけど、カラスはまた集まってきて引っ張り出そうとしていました。次の日のお弁当は僕が食べ切れるように、お父さんとお母さんと相談して作ってもらいました。まだ毎日ではないけれど、僕も台所に入って、お弁当作りに参加するようになりました。

繁忙期

心に染みる

海景色

神奈川県横浜市 23 歳

明野 友菜

《作品について》

どんなに忙しく仕事をしている時でもふと海を見ると心が癒され浄化されていくような気持ちになります。慌ただしく体力仕事をしている時や事務作業に集中している時に海がすぐそばにありその海を見つめながらなんでもない時間が過ぎていくのがすごく心癒されます。特に陽が当たるとキラキラと輝いて見える瞬間がとても美しく、海を見ながら働けるこの環境がとてもありがたいです。どの海でもいいという訳ではなく、ビーチクリーンをし環境を整えているからこそこの輝きがあり心癒さが満たされるのだと思っていますのでこちらの川柳を書かせていただきました。

節電で 地球も一緒に ひと休み

東京都町田市 47 歳
穴田 直幸

《作品について》

無駄な電気などを細目に消して、エネルギーを押さえることで温室効果ガス削減に繋げていく。

給食を のこさず食べる フードロス

神奈川県横浜市 小学4年
新井 聡太

《作品について》

僕は、給食で残したことはありません。社会科のゴミの学習で、フードロスのことを知りました。初めて聞いた時、ご飯などを残すと燃やすゴミになり、濡れているゴミを完全に燃やすのには、高い温度が必要だと習いました。給食で、残している量が少しでもあったら、それを燃やす必要があり、地球温暖化を僕たちのクラスでも知らず知らずにやっているのだと気がつきました。だから、僕は自分はもちろんこれからも全部食べるけど、クラスみんなで残食をゼロにできるように、楽しい給食の時間にしていきたいです。みんなが色々なものが好きになるように、おいしさを伝えていきたいです。

やまのごみ そのままならば うみのごみ

神奈川県横須賀市 68 歳
荒木 裕実

《作品について》

ポイ捨てにした、ビニールやペットボトルなどの分解されないものはの行きつくさきは回って海に行ってしまうので、捨てないこと、見つけたら拾うようにする。

海の中

5 ミリのプラグ

うようよと

神奈川県逗子市 小学5年
栗津 旭紀

《作品について》

食卓に お米がないと さみしいな

神奈川県藤沢市 小学5年
安齋 花音

《作品について》

令和の米不足を思い作りました。私はお米が大好きなので、これから何十年も安心して食べたい願いを込めて。農家さん頑張ってください～

不平等

募金や色々

寄付しよう

神奈川県逗子市 小学5年
安保 英茉

《作品について》

生ゴミを しぼって捨てれば エコになる

神奈川県逗子市 小学5年
飯田 敢太郎

《作品について》

暑すぎて 玄関でたら オーバーヒート

神奈川県横浜市 小学5年
飯田 千紘

《作品について》

秋になっても最高気温が驚くほど高くて、地球温暖化によることを実感してしまうから。ゴミ拾い・分別・ポイ捨てしない。エアコンや電気をつけっぱなしにしない等の身近なことからしていきたい。

おかいもの 前からとろう 食べ物は

神奈川県藤沢市 小学5年
五十嵐 すみれ

《作品について》

お母さんとスーパーへ買い物にいったときに、前から取することで温暖化を低減することを教えてもらいました。牛乳などは買ったらずぐにのんでしまうので、前から取りスーパーの食品ロスが減るように努めたいです。

ゴミ拾い みんなでやれば 楽しかった

神奈川県逗子市 小学5年
井汲 友輝

《作品について》

経済を みんなで回し 繁栄へ

東京都新宿区 47 歳
池内 竜也

《作品について》

この川柳は、SDGs の目標 8「働きがいも経済成長も」をテーマにしています。持続可能な経済成長を通じて、全ての人々が協力し合い、共に成長し、社会全体が繁栄することを表現しています。経済活動の重要性と協力の必要性、そして共通の目標に向かって努力することの意義が込められています。

廃棄物 減らすための 4R

神奈川県逗子市 小学5年
池田 董太郎

《作品について》

分別を 家でする人 職場でも

東京都葛飾区 57 歳
石井 勝宏

《作品について》

ゴミの分別を家庭ですべてしても、場所を問わず行ってほしいと願いを込めました。

だれにでも わかるをふやす まちづくり

東京都昭島市 51 歳
石井 小百合

《作品について》

人によっては判別しづらい色やその組み合わせがあったり、認識しづらいかたちがあったりするというのを、とあることがきっかけで数年前に知りました。デザインに携わる立場にいますので、パブリックに出すものに関しては、その人の持つ特性や年齢、障がいによって左右されない案内や告知を出せるよう、誰にでもわかるユニバーサルデザイン・ユニバーサルカラーというものを意識してサインや告知物をつくるようにしています。未来づくりプロジェクトの一環で地域とのつながりが増えています。誰もとりこぼさず、住み続けられるようなまちづくりに貢献していきたいと考えています。

刈った芝 自然に返そう リサイクル

神奈川県横須賀市 37 歳
石井 祐太郎

《作品について》

植栽の仕事で施設の芝やマンションの草を刈っていて、この刈ったゴミを毎週クリーンセンターに持っていき、処分するときに焼却処分していたらダイオキシンや二酸化炭素を発生させていると思うとエコではないと思っていました。逗子市では、植木のゴミを粉碎してチップや腐葉土などにして市民の方無料で配っていると知ってこの川柳を考えました。

多様性

みんなちがって

みんないい

神奈川県逗子市 小学5年
石垣 瑠奈

《作品について》

いぬがほる つちの中は だいせかい

神奈川県逗子市 小学5年
石川 郷也

《作品について》

うまかった そのひとことが えいようざい

千葉県千葉市 54 歳
石川 淳二

《作品について》

食事を残さず、美味しく召し上がって頂いたこと、また美味しかったと言ってくれたこと、それが自分達にとって、活力になっている。

オープンに 自分らしさを 分かち合う

神奈川県横浜市 20 歳
石川 夏希

《作品について》

私は性別関係なく、結婚式をたくさんの人に経験してほしいなと思っています。自分が今までお世話になった人、大切な人と幸せな時間を一緒に過ごせるのが結婚式の素敵なのだなと思っています。今は同姓同士の結婚はできなくても、結婚式を行える式場は増えてきていると思います。新郎が 2 人でも、新婦が 2 人でも何も思わない、それも普通だと思えるくらいな世の中になってほしいなと思いました。ジェンダー問題で悲しむ思いをする人が少しでも減るような、理解ある世の中になってほしいと思います。

守るべき 海の豊かさ 未来まで

神奈川県藤沢市 小学5年
石川 ゆう

《作品について》

海に遊びに行った時、ゴミの多さにビックリしました。プラスチックや空き缶、ペットボトルにビニール袋。みんながちゃんと持ち帰って捨てれば海を汚さないのにと感じました。

この水が 巡りまた来る 君の前

愛知県蒲郡市 60 歳
石田 賢吾

《作品について》

水は循環を繰り返し、また私達の前に戻って来るのだから、極力汚さず大切にしなければならぬ。

マイボトル 命の長い ペットボトル

神奈川県藤沢市 小学5年
石橋 佑帆

《作品について》

毎回ペットボトルを買うと環境によくないと考え、この川柳を作りました。

大丈夫 残りはパパが 食べるから

東京都日野市 36 歳
一郷 美波

《作品について》

我が家は家族でおでかけしたり外食に行くと、それぞれ食べたいものがバラバラだったり、1 人前が多いお店だったりすると「食べきれないかもしれない、、」と子供たちと注文するか一旦悩むが、このパパの一言ですべて解消されるので HERO です！

守りたい 守らせたいね ルールとマナー

静岡県熱海市 40 歳
井出 市太郎

《作品について》

マナーの範囲ならまだしもルールとしてこうしてほしいと公言されてることも平気で守らない人が多い昨今ですが、そんなこと言う自分はどうなのかと振り返るために一番最初に「守りたい」という自分がどうありたいかの言葉を入れました。

ビーチには プラスチックが いっぱいだ

神奈川県鎌倉市 小学5年
井出 虎ノ丞

《作品について》

海に遊びに行き、場所を選ぶ際に目についたゴミを拾うのですが、プラゴミですぐに袋がいっぱいになり、がっかりしボソッと口から出た言葉がそのまま川柳に。。

もったいない 水かお茶なら マイボトル

神奈川県横須賀市 44 歳
井手籠 菜見子

《作品について》

日常で、ムリなく続けられている SDGs を川柳にしました。現在、子供たちは年間を通して学校に水筒を持っていくことが当たり前になっています。子供には、当然のように水筒を持たせているのに…自分は荷物になるし喉が渴いたら買えばいいかと、出先で購入し、水筒を持つことを嫌煙してました。けれど、水筒を持つ機会が続き、快適さを体感しました。夏場は冷たいまま、冬場は温かいまま、いつでも飲めて、カラダにもうれしい！さらに節約にもなるし、ペットボトル削減にもなる。そして、節約した分で外食すれば、これは食品ロスにも繋がり、エコにもココロにも嬉しい。たくさんのメリットがあることに気付いてから、今や水筒は必需品になりました。これからも、自分なりにメリットを発見して、ムリせず、楽しく、SDGs を続けていこうと思います。

ゴミ分別 地球のために 取り組もう

埼玉県所沢市 28 歳
伊藤 琴音

《作品について》

海のごみは街から来てると知ったので、ポイ捨てなどはせずしっかりとゴミを捨てて欲しいという気持ちを込めました。

賞味期限

奥から取るその

風土、ロス

神奈川県逗子市 小学5年
伊藤 南

《作品について》

エアコンも 地球の温度も 適温に

沖縄県中頭郡中城村 25 歳
伊藤 悠哉

《作品について》

地球の気候変動について考えるとき、1 人の力ではなにも変えられないと思ってしまふけど、身の回りのちょっとしたことでも、積み重ねていけば大きな変化をもたらすことができると思います。

エアコンの温度を 1℃、2℃変えるだけで、何十年後かの地球の温度が 1℃、2℃変わってくるのかもしれないと思いこの川柳を詠みました。

電気消す お出かけモード 出発だ

神奈川県横浜市 小学4年
伊藤 利恩

《作品について》

僕は、出かけるときに部屋の電気を消すように気をつけています。テレビや電気など使っていない電化製品は、スイッチを消しています。そうすることで、もったいない電気を使わなくても大丈夫なようにしています。家族の中でも、お母さんは、いつもみんなに電気を消すように言っていて、みんなが気をつけています。学校でも、音楽室に行くときや図書室に行くときは、電気を消してから出発しているの、この川柳にしました。

電動化

未来を支える

社長印

神奈川県鎌倉市 51 歳
稲林 奈美子

《作品について》

電動化は地球のすべてに優しい。脱炭素問題の貢献だけでなく、まわりの人への騒音を軽減できたり、作業者にとっても利便性に優れ、工具として扱いやすくなります。人や地球に優しい未来を創るためには、エンジンから電動への移行が必要であり、未来は決裁印にかかっています。

波の声

ゴミは、やめてね
君のため

神奈川県逗子市 小学5年
稲見 優一

《作品について》

スーパーで さがした海の エコラベル

神奈川県逗子市 小学5年
今井 颯人

《作品について》

気付いたら 吸った空気も シェアリング

静岡県浜松市 23 歳
岩井 勇樹

《作品について》

いつも何気なく吸っている空気は、地球で生きるみんなのものであるという、至極当然のことを一句にしてみました。説明するまでもないですが、地球上において空気そのものは誰か一人のものではありません。しかし、この意識が最近欠けているのではと疑問を持ちました。そこで、SDGs の事例でも使われる「シェアリング」という語を使い、空気もまたみんなで共有するものの一つであることを意味付けました。また、みんなで使うものであるからこそ、みんなでクリーンに保とうとする啓発の意味も込めています。それが、地球温暖化などの気候変動を抑制するための意識改革に繋がると考えています。

日本の 食卓から魚(うお) 消えてゆく

神奈川県三浦市 38 歳
岩崎 瑛美

《作品について》

先日、手作りのまぐろの味醂干しをいただき久しぶりに食べてみると、その味と香りの懐かしさにいっきに子供の頃のことを思い出し、昔はもっと食卓に魚があがっていたなあと、しみじみ感じました。台所で祖母にくっついて、秋には炭をおこして秋刀魚を焼いたり、お祝いの時は大きな金目鯛を捌いたり。魚の味と共に、節目節目の食文化も忘れかけていたことにショックを受けました。たくさんの美味しい魚と、旬の味、素晴らしい日本の食文化を未来に遺すためにも、ストップ温暖化！

洗濯は 着たらじゃなくて 汚れたら

千葉県市川市 56 歳
岩渕 勝弘

《作品について》

着た服一度で洗うのは 汚れじゃなくて習慣です。

海岸で ゴミがあつたら すぐひろう

神奈川県逗子市 小学5年
上田 拓実

《作品について》

宅急便

我が家に電車が また増える

東京都葛飾区 41 歳
上田 芳雅

《作品について》

宅急便として届く段ボール。我が家では段ボールを資源ごみとして捨てず、電車好きな息子が工作で、自分が運転手としてまたぐことができる素敵な電車へ大変身。年々、工作電車が増え、家が狭くなります。

ゴミ分別 地域で違うの なんでかな

神奈川県逗子市 53 歳
植松 理恵

《作品について》

市町村によってゴミ分別の違いに純粹に疑問を覚えます。細かく分けているのってむだなの？

ゴミ拾い 街も心も ピカピカに

神奈川県逗子市 49 歳
牛島 桃江

《作品について》

はじめは業務だからという気持ちでマンションの外周ゴミ拾いをしておりましたが、実際ゴミ拾いを続けると自分自身の気持ちもスッキリ爽快となることに気がきました。そしてマンションにお住まいの方以外のすべての方々にも少しでも気持ち良く感じてもらえるようぜひ続けていきたいと思っています。

温暖化 地球も肌も 乾燥中

神奈川県逗子市 51 歳
薄井 直美

《作品について》

世界中で多発している森林火災の原因は、地球温暖化による高温・乾燥状態だと言われています。より良い環境を未来に残すため、今私たち一人一人が(自分のこと)として考え・行動していく事が大切な事だと考えます。

多様性

自分も大事

みんなも大事

神奈川県横浜市 48 歳

内田 麻子

《作品について》

多様性を受け入れる…つまりは、自分と違う価値観、考え方、人生を認め合うこと。そのためには、まず、自分がどうであるかを知る必要がある。アイデンティティをしっかりと把握すると、人との触れ合いの中で、すぐに違いが感じられるだろう。誰一人として同じ存在がいないということも当たり前だと理解できる。自分を大切にすることが、お互いを認め合うことに繋がる所以である。違いを非難したり、何かを強制することがいかに無意味であるか。

目標が いっぱいあるから 複数形

神奈川県茅ヶ崎市 小学5年
内田 夏乃

《作品について》

目標がたくさんあるので、一人ひとりがルールやマナーを守って、少しずつでも17項目を達成していこう！という願いをこめてよみました。

好き嫌い 伝えて抜けば 食ロスゼロ

東京都板橋区 41 歳
内村 朱希

《作品について》

本来、好き嫌いせずに何でも食べるのがベストではありますが。しかしそうもいかない場合、食べられない食材を申告せずに残して廃棄処分するよりは、はじめから抜いてもらう方がフードロス削減につながります。また、本人にとっては好きなものだけを美味しく食べられ、飲食店側にとっても同じ値段でコストが下がり、実は Win-Win なのではないかと前向きに考えるようになりました。

また増えた 柱の傷に 幸せ思ふ

神奈川県三浦市 48 歳
内海 由貴子

《作品について》

毎年、子供の誕生日に身長を測って、柱に印をつけています。先週、誕生日を迎えた娘の印を見て、元気に成長してくれた事に幸せを感じ、世界のどの子供も平等に幸福になって欲しいという祈りを込めて。

エコバッグ 地球への愛 詰め込んで

神奈川県藤沢市 小学5年
宇土 修平

《作品について》

エコバッグを使うようになったから、エコバッグについて考えました。

海の中 プラスチックが ありすぎる

神奈川県藤沢市 小学5年
宇野 陽琥

《作品について》

ビーチクリーン活動をしていくなか、ゴミがなくなり、何十年前の瓶の破片を拾っている。今、ゴミを減らせばきっと将来に繋がる。

地球を 大切にしよう 対策を

神奈川県逗子市 小学5年
海野 紬

《作品について》

百円玉

それですくえる

命がある

神奈川県逗子市 小学5年
枝 優輝

《作品について》

消費期限 昨日だったら 食べれたね

神奈川県藤沢市 小学5年
恵美 晴登

《作品について》

日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は 472 万トンだそうです。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料支援量（2022 年で年間 480 万トン）とほぼ同等に相当します。食品ロスをなくす為に消費期限に気を付けて無駄を無くしましょう。

ポイ捨ては 絶対にだめ 汚いよ

神奈川県横浜市 小学4年
翁 劉靖芯

《作品について》

ポイ捨てをすることを世界中で止められたらいいなと思い、この川柳を作りました。私は、自分のまちがきれいだととても気持ちがいいです。もし道にごみが落ちていたら、1日を気持ちよく過ごすことはできません。もしかしたら、その1つのゴミのせいで、他の人も捨ててもいいのかなと思ってしまうでしょう。だから、一人でもポイ捨てをすることがない街にしていきたいと思いました。社会の学習で、ゴミの焼却場に行きました。そこで、すごい量のゴミを目にしました。そのゴミは、ゴミ箱にきちんと捨てられているものですが、この他にも、ポイ捨てがあるのだと思うと地球は汚れてしまうなと思いました。

季節感

失いゆくよ

言葉たち

神奈川県三浦市 50 歳
大石 佳代子

《作品について》

温暖化、気候変動の時代と言われる中で四季の変化が失われつつあります。春と秋が感じられない事で季節を感じさせる言葉が減ってきていると感じました。

どうするの 青い大空 守るため

神奈川県藤沢市 小学5年
大内 杏夏

《作品について》

この地球の青さを守るにはどうしたらいいのか、一人ひとりが考えるべきだと思います、問いかけてみました。

出たお釣り 少額だけれど 募金する

東京都豊島区 28 歳
大垣 瑛

《作品について》

少しだけでも考えを改めみんなのためになることができるとよいなと思いを考えました。

子供にも 言って聞かせて 未来の地球

神奈川県藤沢市 39 歳
大久保 誉嗣

《作品について》

自宅の近くの海岸を散歩しているとプラごみやペットボトルがよく落ちています。子供は純粋になぜこのゴミをゴミ箱にちゃんと入れないのと聞いてきます。気づいたらゴミを拾おうと教えています。たったこれだけの行動をするだけでも子ども自身の自分たちの未来の環境につながることを(本人はまだ理解しているか分かりませんが)伝えています。

思い出せ 手をつなぎ合う 幼き頃

神奈川県鎌倉市 38 歳
大熊 早貴

《作品について》

子どものころには、お友だちと仲良く、手と手をつないで協力していたなと思いました。いろいろなことを素直に行っていたことを思い出して、大人同士でも手をつなぎあい協力して、目標達成に少しでも近づけたらとおもいます。みんなで、幼き自分を思い出してがんばれたら良いと思います。

小修繕

環境保全の

誇り持ち

東京都世田谷区 60 歳

大倉 靖司

《作品について》

仕事でちょっとした小修繕をすることがよりあり、面倒くさいと思う部分と売り上げの為に新品に更新した方が良いのかもしれないという思いも少しありますが、直していくことで無駄な廃棄物を少しでも無くすことにつながり、ひいてはそれがSDGs運動のお役に立てればと思う次第です。

コンビニで 食品値引き 廃棄ロス防止

神奈川県横浜市 49 歳
大島 誠

《作品について》

コンビニでもスーパーでも時間が遅くなると廃棄ロス防止のために、値引きしてでも売り切る気概は SDGs に繋がっていると思います。食品ロスを防ぐために自分たちが何をすべきなのかを考えさせてくれます。

水がなく 泣いてる君に 水もなく

神奈川県逗子市 25 歳
太田 朱音

《作品について》

最初と最後の 5 文字の読み方で違う意味にとらえられるような句にしました。どんな場所でも安全な水が飲める世界になってほしいです。

ポイすてを ひとりがすると みんなする

神奈川県藤沢市 小学5年
大塚 真太郎

《作品について》

SDGs マンガのアイデアが浮かんだときに、川柳も一緒に浮かんできて、これだ！
と思って書きました。

ゴミひろい あかるい未来に つれていく

神奈川県藤沢市 小学5年
大波 健

《作品について》

ゴミを拾い、街を清潔に保ちいつまでも綺麗な日本に住めるようにしたい。

手を繋ぎ 我が子と抱く 大きな夢

神奈川県鎌倉市 32 歳
大野 舞香

《作品について》

サッカーで日本代表になりたいと言う娘。鎌倉には海はあるけど思いっきりボールを蹴れる公園が少ない。大人として街の子供達が大きな夢を抱ける街づくりを目指したい。

ビーチクリーン 見てみぬふりは いけないよ

神奈川県藤沢市 小学5年
大橋 琉華

《作品について》

海にはいつも何かしら残念な事にゴミがある。捨てる人がいなくなれば良いがそれはむずかしい。海へ行ってゴミを見つけても拾わない人がいるかと思ったのでこの川柳を書きました。

海さんぽ 気づけば夢中 マイクロ拾い

神奈川県逗子市 64 歳
大平 玲子

《作品について》

海岸を歩いていて何気なく目についたマイクロプラスチックを、気づけば夢中で拾ってしまうほどたくさん落ちています。マイクロプラスチックの有害性を多くの人
が理解し、捨てない努力の意識が広まることを願います。

ビーチクリーン 光る君は マイクロプラ

神奈川県逗子市 44 歳
大村 佳那

《作品について》

ビーチでは自然界にはない色のものがキラキラ光って何かな～と思って見てみるとほぼすべてがマイクロプラスチックごみだということに気づかされる。

おさがりの 靴で今年も 1等賞

東京都練馬区 43 歳
大和田 梓

《作品について》

弟は兄のおさがりの物が多い。おさがりの靴をはけば兄の様に早く走れる気がして、願いを込めて走る。

海の中

汚いものは

人のゴミ

神奈川県横浜市 小学4年
岡崎 優太

《作品について》

僕は、海の中でクジラや魚たちが、プラスチックゴミを食べてしまっている映像を見ました。それを見て、人間は、いっぱいポイ捨てをしてしまって、ゴミが海にたどりついていることに気づきました。海の中にあるゴミは、すべて人間が作って捨てたゴミだから、分別したり、リサイクルをしたりしないと環境にも悪いし、海の生き物が死んでしまうと思いました。もし魚がゴミを食べて死んでしまわなくても、人間がその魚を食べると考えると僕たちの体にもプラスチックが入り込んで怖いなとも思いました。僕は、出かける時に、ゴミをその場所などに捨てないで、持ち帰りをするように心がけています。お父さんもエコバックをいつもカバンに入れて買い物に行っています。そう言うことを世界中ですることができたらいいなと思います。

子どもより 早く寝る父 節約家

神奈川県藤沢市 45 歳
岡田 夏子

《作品について》

毎晩 9 時に寝る 3 年生息子。一緒に寝ようとせがまれ眠くなくても横になれば即寝。

エコバック わすれるたびに レジぶくろ

神奈川県逗子市 小学5年
岡本 怜奈

《作品について》

海大地

生命(いのち)を託し ありがとう

神奈川県鎌倉市 39 歳
小川 圭祐

《作品について》

日々生きていく上で食すことは必要不可欠であります。海からの命、大地の農作物、牛豚鶏をはじめとする動物達の命など生産量の多い少ないに関わらず、たくさんの生命から我々人は生きる力を頂いています。過ぎ去っていく日々の中、生きていることは当たり前ではないことに感謝をしなければとの想い、料理人として大切な命を繋ぐ役割を持っていることを改めて意識して料理に真摯に向き合わなければとの想い、人と料理人の 2 方向の目線からの感謝を詰め込んだ川柳になっております。

温暖化

人が壊すよ

反省を

神奈川県藤沢市 75 歳

小川 哲雄

《作品について》

世の中は人によって構成され人によって生きてます、環境破壊は一人一人の考えで、前に進むものです。

もったいない まだ食べられる その野菜

神奈川県藤沢市 小学5年
小川 晴希

《作品について》

ニュースで、農家の特集をしているのを見た。曲がったキュウリや形が悪いトマトは、売り物にならないから廃棄すると言っていた。形が悪いだけで食べずに捨てられてしまうなんて、もったいないと思った。

動物と いっしょに守ろう 大自然

神奈川県藤沢市 小学5年
尾崎 葵

《作品について》

機械化が進んで、どんどん自然がなくなっていくます。そうすると、動物たちもいつか消えてしまうかもしれません。だから、生き物を守るために小さな事から頑張っていくます。

分かち合う 釣った魚は 2匹だけ

神奈川県逗子市 50 歳
小澤 恵美

《作品について》

釣りには釣れる日も釣れない日もありますが、釣って帰るのは食べられる分だけ。
家族とおいしくいただき、海の豊かさを守って分かち合うことに喜びを感じます。

早起で 混雑避ける 朝の列車

神奈川県逗子市 51 歳
小澤 徹

《作品について》

公共交通機関の利用を促進し、混雑を避けることで、より快適で持続可能な都市生活を目指すというメッセージがあります。混雑を避けることで、感染症の予防にもなり、健康的な生活を送る事ができるという側面もあります。

少なめで 未然に防ぐ フードロス

神奈川県鎌倉市 42 歳
押切 久実

《作品について》

普段から外食時、食べ残しをしないようにごはんを少なめでと伝えるようにしています。残したらもったいないという気持ちから始めたことですが、外食産業の中では食品ロスの原因として食べ残しが半数近くの割合を占めるというニュースを見てより意識するようになりました。注文しすぎず、残さず食べる。自分一人のできるアクションを続けていきます。

皿をぺロリ 笑ったよ母と父 笑った地球

神奈川県藤沢市 小学5年
小田切 湘

《作品について》

自分から少しでもゴミを減らし、地球にやさしくきれいな町にし、住み続けたいです。

残り湯で 洗濯をして 花咲かせ

千葉県市川市 72 歳
小田中 準一

《作品について》

風呂の残り湯をそのまま捨ててはもったいない。洗濯に使ったり、庭の木や花に与えたり、あるいは打ち水として使ったりと有効活用したい。

あのことは ちがうところが 面白い

神奈川県藤沢市 小学5年
越智 虹花

《作品について》

クラスや学校のお友達も、おけいこのお友達も、道ですれちがうだけの人も、自分と同じ人はいないから、違うところをいやだと思うのではなく、そこが楽しいと思えたら、みんなが仲良くなれると思って考えました。

プラゴミを すてちゃだめだよ うみのなか

神奈川県逗子市 小学5年
小野田 健人

《作品について》

教育で 未来を信じる 人づくり

滋賀県大津市 55 歳
小見 伸雄

《作品について》

すべての人に質の高い教育を提供することで有為な人材の育成を進め、持続可能な社会の実現を図る。

沸騰化 茹だった星は 見たくない

徳島県徳島市 42 歳
小山 昌宏

《作品について》

もはや地球温暖化ではなく、地球沸騰化だと言われますが、沸騰して茹で上がった地球は、きっと青くも美しくもなく、赤茶けた岩みたいなものではないのかなと。もちろん沸騰は例えであり、イメージの話ではありますが、そうなった地球は見たくない、青く美しく、豊かなままでいてほしいという想いを込めました。